

田植え後活着が良かった田んぼでは出穂が例年より1週間程度早まっています。追肥のタイミングを逃さない!! 病害虫の発生も早まっているので、「適期防除」を逃さぬようお願いします。

・春から生育が旺盛で、葉っぱの出る速度も速く、5月10日稚苗植えて「走り穂」が確認できる田んぼが散見されます。

出穂が早まるということは、穂をめがけてくる「斑点米カメムシ」の侵入時期も早まります。

・カメムシ共同防除の日程は飛行スケジュール変更ができないので、「個別の補完防除」を共同防除前の穂揃い期に散布してください。

また、過去3か年よりは、異常高温ではありませんが、適度な雨や霧の日があり、中干し実施無し・追肥等で葉色が濃く推移している品種には病気の発生も早く多くなっています。

一部のこしいぶき・にじのきらめき・新之助で「葉いもち病」が発見されています。

★穂の出る日が早まるということは「稲刈」も早まるので、カントリーご利用の方は「荷受け日程表の確認を。コンバイン・乾燥機等の試運転や点検も1週間早めで行いましょう。

★また、秋に入る前の稔りとなり高温登熟下にさらされる危険性があります、気象予報や稲作情報に注目し、高温が続けば「☆耐暑肥」の準備もして下さい。

☆佐渡米カレンダー7月の右下「耐暑肥」を参照



★令和8年は中干し途中から早期に葉色が退色した田んぼが多く見られました。⇒水稻緊急情報」第一弾を参照ください。一方で、中干し中に葉色が低下せず7月上旬から葉色の濃い田んぼでは、稲の下節(4節3節)が伸びすぎていて倒伏のリスクが高まっているほ場もあります。

- ・出穂期の稈長(穂首から下まで)90cmを超えている
- ・5節4cm超え+4節10cm超え+3節16cm超えの場合倒伏の可能性が高まります

◆秋の長雨に備え、倒伏しても穂が傷みにくいように溝切の作溝や排水設備の補修点検をしましょう。